



はじめに

近江八幡市長 富士谷英正

平成22年3月21日、近江八幡市と蒲生郡安土町が合併し、人口約8万2千人、面積177.39 km²の新しい「近江八幡市」が誕生しました。

両市町は、古代から歴史的繋がりが非常に強く、今日においても通勤、通学をはじめ買い物等様々な生活面での相互交流が盛んでした。また、両市町にまたがる琵琶湖最大の内湖・西の湖は、かつての日本の原風景を留める景観と歴史的風土に恵まれるとともに、ラムサール条約の登録湿地でもあり、両市町住民にとっての共通の宝でもあります。

一方、近年は地方分権が加速し、地方自治体のあり方がこれまで以上に問われる時代となってきました。国や地方の財政状況が硬直化する反面、少子高齢化や教育、福祉、安全・安心、環境問題等、従来にはなかった様々な課題が顕在化してきており、基礎自治体が、いかに財源を確保し、また、限られた財源をいかに有効活用できるかといった地域経営能力が、住民福祉の向上に直結する時代になったといえます。

こうした社会情勢に対応するとともに、合併によって地域の特性を活かした新たなまちづくりをめざし、平成20年9月25日に「近江八幡市・安土町まちづくり研究会」を立ち上げ、翌年4月1日には「近江八幡市・安土町合併協議会」が設置され、両市町の合併について熱心な協議が重ねられてきました。

平成21年5月31日に合併協定の調印を行い、県議会の承認を経て、同年7月31日には総務大臣による廃置分合の告示が行われ、合併が事実上決定しました。その一方で、安土町では合併反対の住民運動から町長のリコール、町議会議員のリコールに発展し、全国的に注目を集めた合併となりました。

紆余曲折はあったものの、きっと近い将来、合併してよかったと市民の皆さんに感じていただけると確信しておりますし、そう感じていただけるよう新市基本計画の基本方針にある『自然の恵み、歴史と文化に根付く「生業」^{なりわい}が広がり、起業する活力とすべての人々が支え合える、ぬくもりあふれたまち』をめざし、新市民の皆さんとともに邁進していく決意であります。

ここに刊行いたします『新「近江八幡市」誕生までのあゆみ』は、これまでの合併協議会の経緯を中心に、その足跡を振り返ったものであり、新たな「近江八幡市」の発展の礎とすべく作成したものです。

今回の合併に際し、深いご理解と多大なるご尽力を賜りました市民の皆様、議会議員の皆様、関係機関の皆様様に深く感謝と敬意を表しますとともに、新「近江八幡市」発展のために引き続きご指導、ご支援をお願いいたしましてご挨拶とさせていただきます。

